校友会東京支部主催「第30回関東地区卒業生の集い」を終えて

～2018年6月23日、東京銀座・交詢社倶楽部にて～

校友会東京支部は、1988年の創設以来、今年で30回目を数える「関東地区卒業生の集い」を盛大なうちに舞収めることができました。これまで支えてくださった大学、校友会、校友会支部の関係各位、そして校友のお一人お一人に心より御礼と感謝をこの場を借りて申し上げます。これまでの30年、これからの30年、引き続き、東京支部をよろしくお願い申し上げます。

わが母校外大は今、大きく変わりつつあります。学園創立70周年の記念事業として新４号館が建設され、より学びの環境が整備されました。今年度、国際貢献学部が新たに立ち上がりました。集いの第一部ではパネル討論会「大学は今！ 校友会は今！」を開催。大学、校友会、東京支部の各代表にパネラーとして登壇いただき、今のそして未来の大学と校友会についてお話をいただきました。



その中で、松田武学長は、国際貢献学部の新設に伴う ”Community Engagement Program” について、校友会の島谷直見会長は「大学と校友会と現役学生」を結ぶ３本の矢について、東京支部・村松安氏は、東京支部内の新たな自主グループ “Global Study Workshop (GSW)” についてそれぞれ熱く語ってくださいました。

集い第二部は、懇親交流会 〜校友と愉楽のひと時を〜。冒頭に森田嘉一理事長・総長からご挨拶をいただきました。先輩や後輩、学科やクラブの垣根を超えて愉しい交流の時間をゆったりと過ごしていただきました。交詢社（福沢諭吉の主唱により設立）ならではの社交の歴史と伝統ある雰囲気の中で、美味な料理やお酒も楽しんでいただき、大いに盛り上がりました。もらって嬉しい景品たっぷりの抽選会も皆さんに喜んでいただきました。今年はポーランドとスロベニアの留学生をゲストに招いて皆さんとの交流をはかってもらいました。

2020年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。4, 000万人の外国人旅行者がその年日本を訪れ、その内の８割近い外客が東京を訪ねるとみられています。東京支部の果たすべき役割と東京支部らしい本領発揮とは何かを今一度見つめ直す貴重な30周年記念の集いとなりました。これからも「校友の知見を共有し互いの人生を応援し母校に貢献する東京支部」であり続けたいと思います。

